SCREEN

株主通信

WINTER 2016

VOL. 101

2017年3月期

第2四半期 決算報告

事業紹介 …… 1
株主の皆さまへ …… 3
業績・業績予想 …… 4
連結決算ハイライト …… 5
セグメント別業績 …… 6
Topics …… 7
CSRの取り組み …… 8
主要連結財務諸表 …… 9

Fit your needs, Fit your future

期待に応えて、未来を形に…

SCREEN NOW

Our Business 事業紹介

シェアNo.1製品を有する3つの主要事業と有望市場に挑戦する新規事業を展開

セミコンダクターソリューション(SE)事業

洗浄分野を中心とした半導体製造装置

枚葉式洗浄装置※1・バッチ式洗浄装置※2
スピンスクラバー※3

世界シェア **No.1**

グラフィックアンドプレシジョンソリューション(GP)事業

印刷・プリント基板関連機器

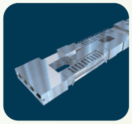
CTP装置※4

世界シェア **No.1**

ファインテックソリューション(FT)事業

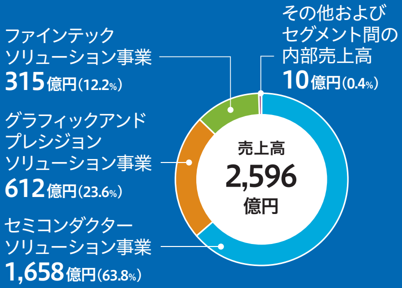
フラットパネルディスプレー(FPD)製造装置

コーターデベロッパー※5

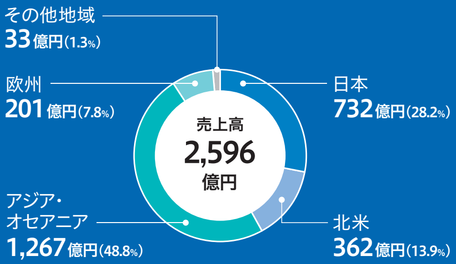


世界シェア **No.1**

セグメント別売上高(2016年3月期)



地域別売上高(2016年3月期)

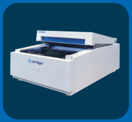


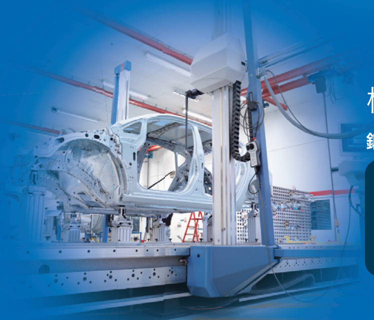
※1 枚葉式洗浄装置:ウエハーを1枚ずつ処理する洗浄装置。
※2 バッチ式洗浄装置:複数のウエハーを一括で処理する洗浄装置。
※3 スピンスクラバー:ウエハーを軟らかいブラシと純水で物理洗浄する装置。

新規事業

ライフ
サイエンス分野

高速3D細胞スキャナー



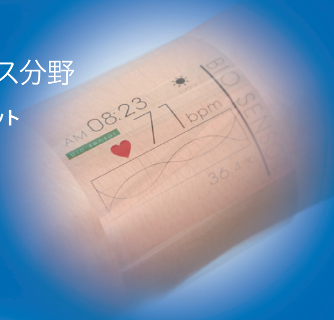


検査計測分野

鍛造部品自動外観検査装置

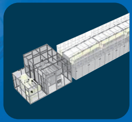
プリンテッド
エレクトロニクス分野

超精密グラビアオフセット
枚葉式印刷装置



エネルギー分野

リチウムイオン、燃料電池
製造装置



※4 CTP装置：コンピュータで制作したデジタルデータからダイレクトに刷版を作ることができる装置。
※5 コーターデベロッパー：レジスト（感光液）をガラス基板上に均一に塗布し、現像する装置。

Top Message 株主の皆さまへ

Challenge2016最終年度の目標達成に向けしっかりと歩みをすすめています。

株式会社SCREENホールディングス
代表取締役 取締役社長
最高経営責任者（CEO）
垣内 永次

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

中期3カ年経営計画「Challenge2016」（以下、中計）の最終年度となる当上半期の連結売上高は、前年同期比で63億円の増収、連結営業利益も同13億円の増益と、売上・利益とも順調に伸ばすことができました。中計の第1の目標である「収益構造改革」も着実に進捗し、第2四半期の営業利益率は9.6%と目標の「10%以上」をしっかり視野に捉えています。

上半期の好業績をけん引したのは、セミコンダクターソリューション（以下、SE）事業とファインテックソリューション（以下、FT）事業の好調でした。主要ビジネスであるSE事業は、アジア地域での販売増加などにより期初計画を大幅に上回る成績を上げることができ、高い収益性を継続しています。受注環境につきましては、SE事業でファウンドリーの最先端投資や3D-NAND（メモリー）投資が活発なことにより、上半期受注額は過去最高の1,024億円に上りました。加えて、FT事業では4四半期連続で受注額が100億円レベルと高水準であり、期末、来期に向けて明るい展望が開けています。

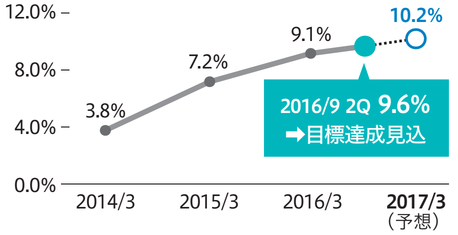
中計の第2の目標である「財務体質の強化」も進展しました。上半期は前年同期比でフリー・キャッシュ・フローの大幅増や有利子負債の削減により、ネットキャッシュポジションとなっています。自己資本比率は40%半ばに留まっているものの、当期末までにはさらなる在庫圧縮などを行い、目標の「50%」を達成できる見込みです。

一方、第3の目標である「新規事業領域での事業化」に関しましては、残念ながら当期中の黒字化は厳しい状況ですが、各事業の芽は確実に育っています。特に、FT事業内で進めているエネルギー関連は黒字転換の一歩手前まで来ており、来期以降の成長に期待をかけています。

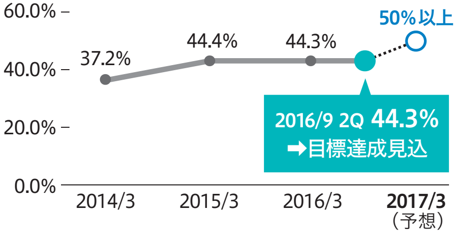
今期末までの残り3カ月余りを中計の総仕上げとし、より一層気を引き締めながら、目標達成に向けてまい進してまいります。引き続き当社グループへのご理解、ご支援をお願い申し上げます。

中期3カ年経営計画「Challenge2016」の進捗

目標1 収益構造改革
最終年度の営業利益率10%以上



目標2 財務体質の強化
最終年度の自己資本比率50%以上



目標3 新規事業領域での事業化
4つの新規事業領域で黒字化
(エネルギー、ライフサイエンス、検査計測、プリンテッドエレクトロニクス)

➡ 来期以降に売上拡大と黒字化の見込

配当金実績および配当予想 (単位:円)

	2016年3月期(前期実績)	2017年3月期(当期予想)
1株あたりの年間配当額	12.00	70.00※

※ 株式併合前の1株では14円。

当社の配当方針の詳細は、ウェブサイトで説明しています。
www.screen.co.jp/ir/indiv/dividend.html

第2四半期累計期間の業績について

当社グループを取り巻く事業環境は、半導体業界では、ハイエンドスマートフォンやIoT関連のビッグデータ処理用データセンター向けの旺盛な需要を背景に、ファウンドリーにおいて微細化投資が活発化するとともに、大容量データサーバー向けなど、メモリーメーカーの設備投資も堅調に推移しました。FPD業界では、中国での大型液晶パネル向け投資は一時的に減少しましたが、国内において中小型液晶パネル向けの投資が増加しました。

このような状況の中、当第2四半期累計期間における当社グループの売上高は1,361億円と前年同期に比べ63億円(4.9%)増加しました。利益面につきましては、円高の影響があったものの売上の増加などにより、営業利益は121億円(前年同期比13億円、12.7%増)、経常利益は116億円(前年同期比10億円、10.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は94億円(前年同期比9億円、11.7%増)となりました。

通期業績の見通し

通期連結業績につきましては、セミコンダクターソリューション事業において、足元の受注状況から売上と利益が想定を上回る見込みとなったことから、2016年8月8日に公表した数値を下記のとおり上方修正しています。

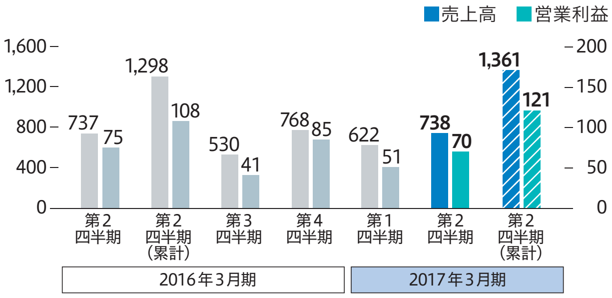
業績予想 (単位:億円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
8月発表	2,650	270	265	205
11月発表	2,840	290	280	230

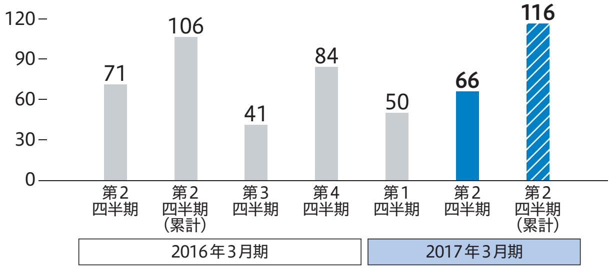
Highlight 連結決算ハイライト

（注）財務数値につきましては、金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表示しています。

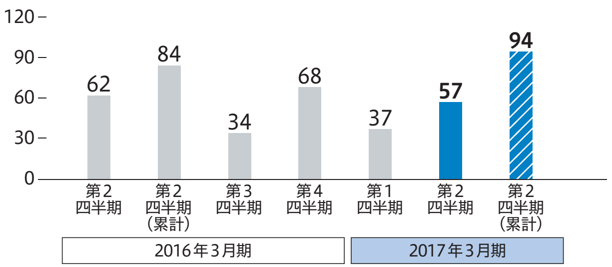
売上高・営業利益（億円）



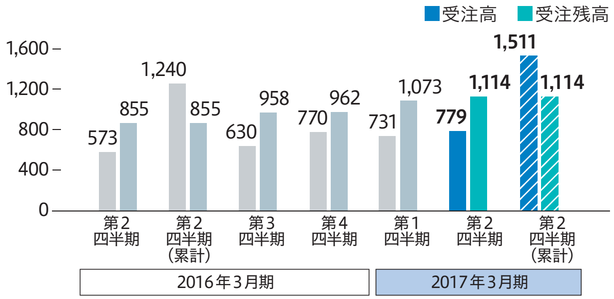
経常利益（億円）



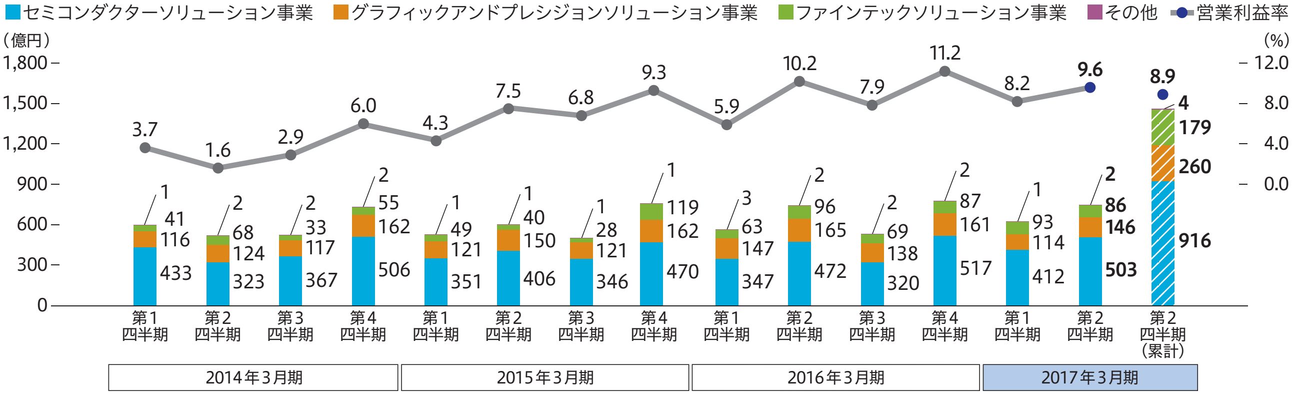
親会社株主に帰属する四半期純利益（億円）



受注高・受注残高（億円）



セグメント別売上高・営業利益率



Segment セグメント別業績

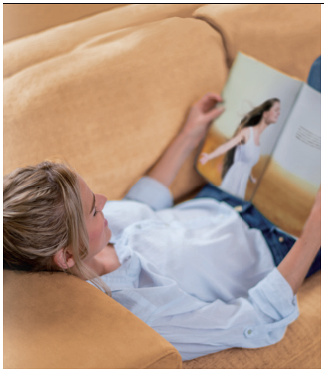
セミコンダクターソリューション事業

当期の業績(第2四半期累計期間)

売上高 **916億円**
(前年同期比 11.8% 増)

営業利益 **103億円**
(前年同期比 31.1% 増)

前年同期に比べファウンドリーやメモリーメーカー向けの売上が増加しました。製品別では、バッチ式洗浄装置の売上が大幅に増加するとともに、枚様式洗浄装置の売上も堅調に推移しました。地域別では、アジア向けの売上が大幅に増加しました。通期に関してもファウンドリーの微細化および3D-NAND(メモリー)への積極的投資が続くと見込み、売上予想を上方修正しています。



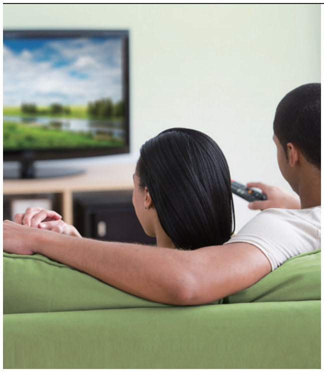
グラフィックアンドプレシジョンソリューション事業

当期の業績(第2四半期累計期間)

売上高 **260億円**
(前年同期比 16.9% 減)

営業利益 **8億円**
(前年同期比 49.5% 減)

印刷関連機器については、POD装置の市場浸透を進めたものの、為替が円高で推移する中、海外の売上が減少したことに加え、国内の売上も低調であったことから、売上が減少しました。下期は海外を中心にPOD装置の販売拡大を図り、収益改善を進めていきます。プリント基板関連機器(PE)事業については、アジア向けの売上が減少しました。来期はPE事業を独立事業会社にし、業界により適合する体制を目指します。 → 詳細はP7へ



ファインテックソリューション事業

当期の業績(第2四半期累計期間)

売上高 **179億円**
(前年同期比 12.6% 増)

営業利益 **17億円**
(前年同期比 11.8% 増)

前年同期に比べ、中国向けの大型パネル用製造装置の売上は一時的に減少しましたが、国内や台湾向けの中小型パネル用製造装置の売上が増加し、増収増益となりました。受注環境は好調で、第3四半期以降も液晶ディスプレー(LCD)だけでなく、有機ELディスプレー(OLED)など新領域も含めて堅調に受注が推移する見込みです。

→「有機ELディスプレー(OLED)」についての説明はP7へ

Topics

セミコンダクターソリューション事業

最先端のロジック半導体開発を行う IBM Research が当社製品を採用

株式会社SCREENセミコンダクターソリューションズは、枚葉式洗浄装置「SU-3200」、UVレーザーアニール装置「LT-3100」、コーターデベロッパー「DT-3000」の3機種をアメリカ・ニューヨーク州にあるIBM Researchアルバニー・ナノテク半導体リサーチセンターに納入します。

同センターは世界13カ所の研究所に3,000人を超える研究者を擁し、6人ものノーベル賞受賞者を輩出しています。最先端(7nm以降)のロジック半導体開発に当社の技術・装置が活用されます。

グラフィックアンドプレシジョンソリューション事業

プリント基板関連機器事業を分社化し、ニーズ対応を強化

株式会社SCREENグラフィックアンドプレシジョンソリューションズのプリント基板関連機器(以下、PE)事業の承継を目的とする準備会社を設立し、2017年4月1日から分社化することとしました。PE事業のメインアプリケーションがパソコンからスマートフォンへと移行するのに伴い、装置の短納期化、仕様対応の柔軟性が従来にも増して求められ、またOEMビジネスが多い印刷関連機器事業とは一線を画すようになっています。

今後は、電子デバイス業界により合致した事業体制を構築し、競争力強化を図ります。

最近、気になるワード

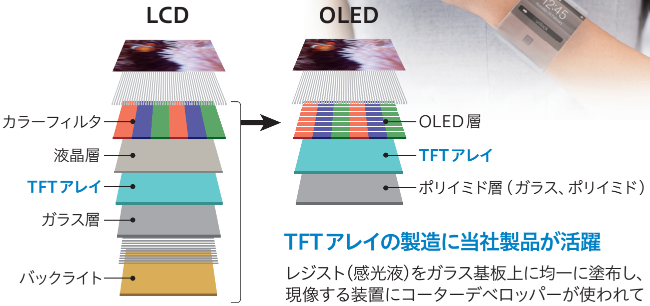
“有機ELディスプレー(OLED)”とは?

薄型軽量で低消費電力の次世代ディスプレー

有機発光材料を素材とした有機ELディスプレー(OLED)は、液晶ディスプレー(LCD)に比べ構造がシンプルで、バックライトなどの装置も不要なため、薄型軽量、低消費電力、高速応答、高コントラストの次世代ディスプレーとして注目されています。また、柔らかく折り曲げることができるフレキシブルディスプレーとしてスマートフォンやウェアラブルデバイスなどに採用されています。

株式会社SCREENファインテックソリューションズは、液晶ディスプレー製造装置の開発で培った技術力を武器に、OLED製造においてもプレゼンスを発揮し、量産化に貢献します。

ディスプレー構造と当社製品



TFTアレイの製造に当社製品が活躍

レジスト(感光液)をガラス基板上に均一に塗布し、現像する装置にコーターデベロッパーが使われており、ディスプレーの高精細化・高画質化に貢献しています。他にポリイミド層形成にPIコータ、OLED層の塗布にノズルプリンティング装置が活躍しています。

グローバル企業としての企業価値向上のため「国連グローバル・コンパクト」に参加

　株式会社SCREENホールディングスは、2016年10月7日、国際連合が提唱する人権、労働、環境、腐敗防止の4分野10原則からなる「国連グローバル・コンパクト」に参加しました。「国連グローバル・コンパクト」とは、各企業や団体が健全なグローバル化、持続可能な社会の発展を実現させようという国際的な取り組みで、全世界で1万4,000以上の企業や団体が参加しています。

　SCREENグループでは、「未来共有」「人間形成」「技術追究」の企業理念の下、「SCREENグループCSR憲章」を制定し、全役員・全従業員の行動原則を示し、CSR経営の実践に努めています。今回の参加を機に、「国連グローバル・コンパクト」が提唱する4分野10原則を尊重し、確実に実践していきます。

国連グローバル・コンパクトの4分野10原則

人 権	原則1：人権擁護の支持と尊重 原則2：人権侵害への非加担
労 働	原則3：結社の自由と団体交渉権の承認 原則4：強制労働の排除 原則5：児童労働の実効的な廃止 原則6：雇用と職業の差別撤廃
環 境	原則7：環境問題の予防的アプローチ 原則8：環境に対する責任のイニシアティブ 原則9：環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則10：強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取組み

社会の持続可能な発展にグループを挙げて取り組んでいきます

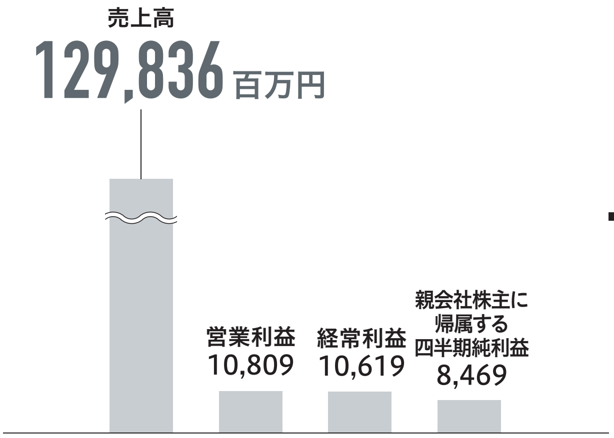
海外売上高比率70%以上、海外従業員比率30%以上のグローバル企業としての影響力をかねてから認識し、事業展開にあたっては社会課題に留意した取り組みを推進してきました。さらに、そうした活動を推進することが企業価値の向上にもつながると考え、このたび、「国連グローバル・コンパクト」に参加しました。今後もステークホルダーの皆さまの期待と要望に応え、社会の持続可能な発展に貢献してまいります。

株式会社SCREENホールディングス
代表取締役 専務取締役CSR経営担当
南島 新

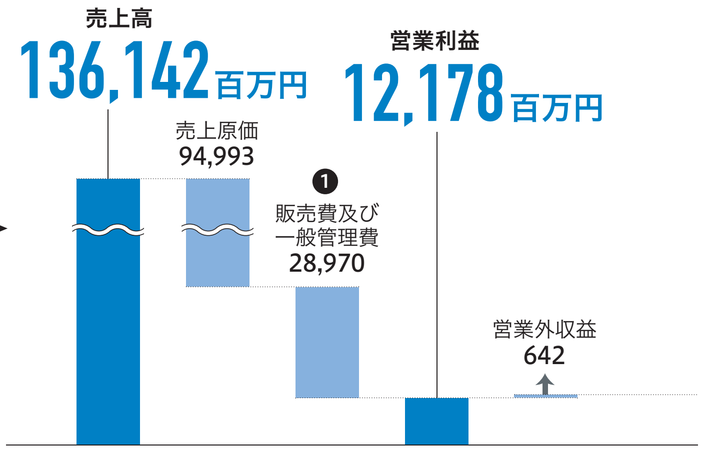
Financial Data 主要連結財務諸表

連結損益計算書

前第2四半期累計(2016年3月期)

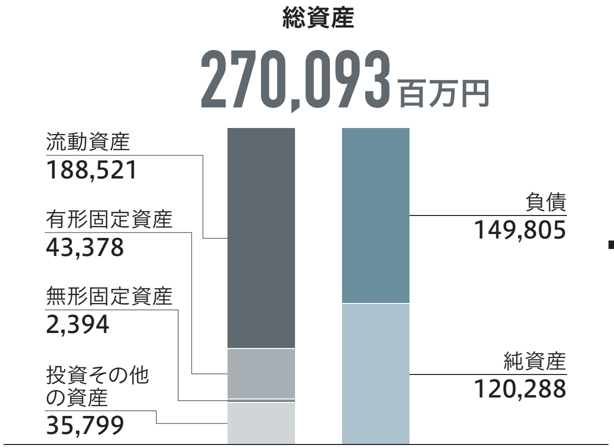


当第2四半期累計(2017年3月期)

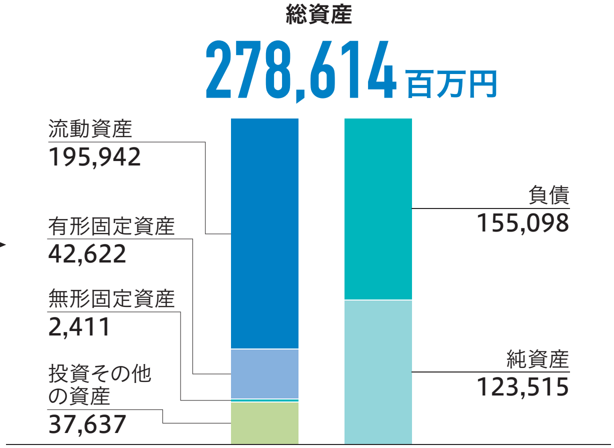


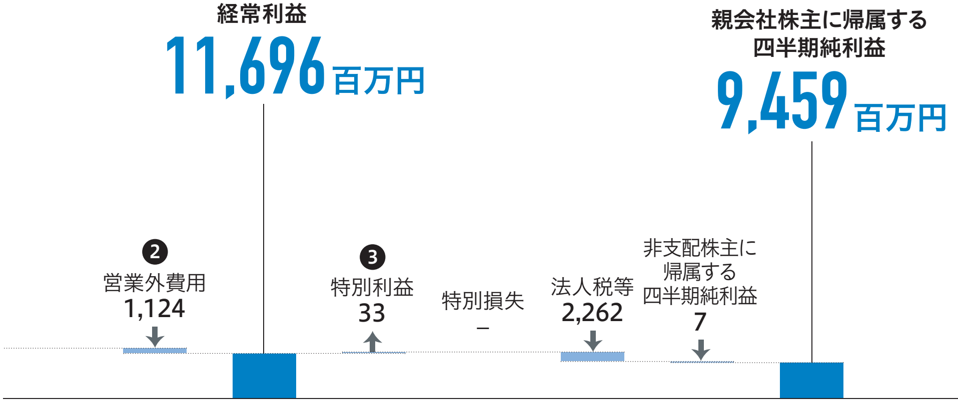
連結貸借対照表

前期末(2016年3月期)



当第2四半期末(2017年3月期)



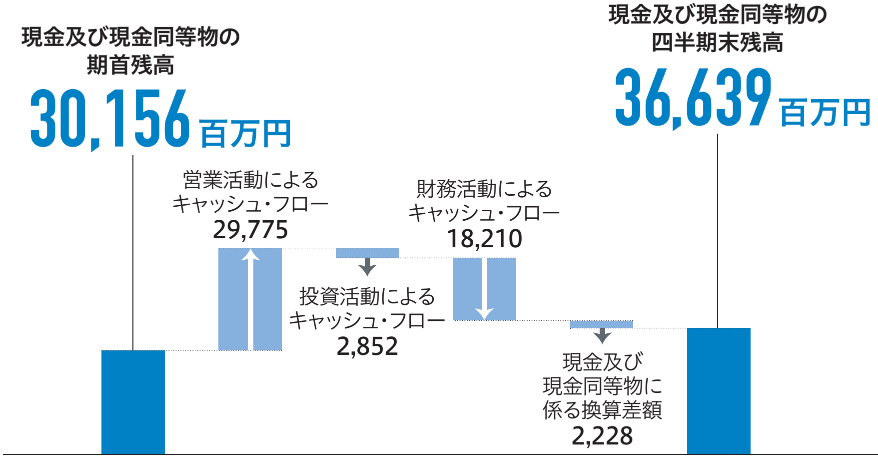


連結損益計算書POINT

1. 販売費及び一般管理費は、運送費等の増加により、前期比295百万円増の28,970百万円となりました。
2. 営業外費用については、為替差損186百万円を計上しました。
3. 特別利益については、投資有価証券売却益33百万円を計上しました。

連結キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期累計(2017年3月期)



連結キャッシュ・フロー計算書POINT

- 営業キャッシュ・フローは、売上債権の減少、仕入債務の増加、前受金の増加などの収入項目が、たな卸資産の増加などの支出項目を上回り、29,775百万円の収入(前年同期は、6,957百万円の収入)と大幅に改善しました。
- フリーキャッシュ・フロー(営業キャッシュ・フロー+投資キャッシュ・フロー)は、26,922百万円と高水準になりました。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会　3月31日 剰余金の配当　3月31日 ※ 当社は中間配当制度を採用しておりません。
単元株式数	100株 ※ 2016年10月1日をもって、単元株式数を1,000株から100株に変更し、当社普通株式5株を1株に併合いたしました。
公告方法	電子公告により、当社ウェブサイトに掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）	電話：0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

1.「特別口座」に記録された株式をお持ちの株主さま

株券電子化までに証券保管振替機構（ほふり）に株券を預託されなかった株主さまの株式は、当社が三井住友信託銀行に開設しました「特別口座」に記録されています。特別口座では、株式の売買が制限されておりご不便かと存じますので、証券会社に開設されました一般口座へ振替されることをお勧めいたします。お手続きの詳細は上記の三井住友信託銀行にお問い合わせください。

2. 単元未満株式をお持ちの株主さま

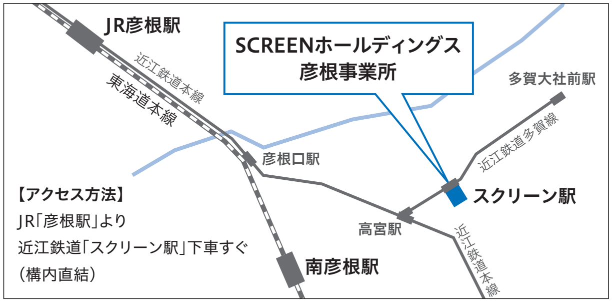
当社に対して、次の請求を行うことができます。
【買増請求】　単元株式（100株）に不足する株式の買増し
【買取請求】　単元未満株式の買取り
お手続きの詳細は、お取引の証券会社（特別口座が開設されました株主さまは、三井住友信託銀行）にお問い合わせください。

「彦根事業所見学会」のご案内

当社の半導体製造の拠点である彦根事業所の見学会を開催いたします。参加をご希望される方は、アンケートはがきに必要事項を記入のうえ、ご返信ください。（申込締切：2017年1月20日必着）

日時：2017年3月8日（水）　13：00 ～ 16：30
場所：株式会社SCREENホールディングス 彦根事業所
　　　滋賀県彦根市高宮町480番1号

※ 定員20名、応募多数の場合は抽選となります。
※ 厳正な抽選のうえ、発表は当選者へのご連絡（2月上旬発送）をもってかえさせていただきます。
※ ご参加は当社の株主さまに限らせていただきます。
※ ご来社は、公共交通機関をご利用ください。



個人投資家さま向けウェブサイトのご案内

当社グループの歩み、事業領域、強みやこれからの成長戦略などを分かりやすく紹介するウェブサイトを定期的に更新しております。

www.screen.co.jp/ir/indiv/index.html

SCREEN　個人投資家 で検索

（注）本誌にて提供する業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

株式会社SCREENホールディングス

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1　電話075（414）7131
www.screen.co.jp　証券コード7735
SCREEN NOW Vol.101　発行日：2016年12月22日（発行は3月、6月、9月、12月）　発行：広報・IR室
「SCREEN NOW」（株主通信）は、当社のフォント「ヒラギノ書体」を使用しております。

UD FONT by HIRAGINO
VEGETABLE OIL INK

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。